

広報

にしあいつ

No. 665

3

2014
(平成26年)

雪灯籠に明かりをともし出迎える

P 2～5 特集 未来につなぐ 農業の進路

P 6～9 西会津雪国まつり

フォトギャラリー2014

P 10 活躍をたたえ

-町教育顕彰表彰式-



写真＝2月16日、農業講演会が開かれ、「人と心をつなぎ育む、農業の未来！」をテーマにパネルディスカッションが行われた。町認定農業者連絡会代表幹事の渡部定衛さんがコーディネーターを務め、農事組合法人会津きのこ工房代表理事の三留満さん、にしあいづ健康ミネラル野菜普及会長の武藤佐代子さん、JA会津いいで青年部西会津支部長の新澤富一さん、青年就農者の渡部佳菜子さんの4人が意見を交わし、農業の一層の振興策を探った。

パネルディスカッション
テーマ 人と心をつなぎ育む、農業の未来！

農業講演会

特集 未来につなぐ 農業の進路

農業政策が

大きく変わろうとする今、
これからの農業を考える。

町の経済や食を支える農業。就業者の減少、高齢化が全国的に進み、担い手の減少により耕作放棄地が増加している。
本町の販売農家は647戸(平成22年)と5年前から100戸減少した。
また一方、町内全域で有害鳥獣被害が深刻化するなど課題は山積する。
農業政策が変わろうとする今、これからの農業について3人に取材した。

示された

新たな農業政策

国は、若者が希望を持てる強い農林水産業、美しく活力ある農山漁村を創り上げることなどを目的に、昨年12月、「①農地中間管理機構の創設」「②経営所得安定対策の見直し」「③水田フル活用と米政策の見直し」「④日本型直接支払制度の創設」の4つの改革に取り組み「農林水産業・地域の活力創造プラン」を決定した。

このプランの実施で、農業・農村全体の所得を今後10年間で倍増させることを目指す。

この改革で、平成30年産から、米の生産調整が廃止されることになり、これまでの米政策が大

きく変わることになる。

具体的な改革内容は、農地中間管理機構が新たに設立され、同機構が農地を貸借し、農地利用の集積を図るほか、米政策では、これまでの生産数量目標の配分が見直され、経営の自由度が高まる。経営所得安定対策の見直しでは、平成26年産から、米の直接支払交付金が10⁷当たり7500円に減額され、さらに米価変動補填交付金の廃止などが行われる。また一方で、水田活用の直接支払交付金や産地交付金により水田での麦、大豆、飼料用米、米粉用米などの一層の生産拡大を目指す。
このように、農業政策の変革期を迎える今、農業の現在の取り組みや、これから進む方向について3人に聞いた。



伊藤 進也さん [牧]

いとう・しんや

高い食味にこだわり ほかの産地に負けない 売れるブランド米を目指す

就

農から6年目の伊藤さんは今年1月、認定農業者になった。現在、母とともに約9畝の水田で稲作を営み、さらに冬はハウス2棟で軟白ネギを栽培する複合経営を行う。収穫量よりも食味、おいしさにこだわり、減農薬の特別栽培米生産でコシヒカリの差別化を図る。軟白ネギはミネラル栽培で生産する。

2年前、伊藤さんは父を亡くした。「父が体調を崩したとき、長男だから農業を継ぐことを決めた」と当時を振り返る。農業について伊藤さんは「自分が手を掛けて栽培し、できた物を食べてもらい、そして、おいしいと言ってもらえたとき、達成感、満足感を味わえる」とその魅力を語る。しかし、米、ネギともに市場価格が低迷しているため頭を悩ませる。伊藤さんは別の品種の導入や他の作物の栽培といった対応を模索する。

町の農業に関して伊藤さんは「若い世代の農家を中心になつて、協力し合い農地を保全していかなければならない」と、いったん耕作をやめた田の再生の難しさを強調する。また「高齢化が進めば、さらに遊休農地が増える」と危機感を強める。こうしたことから「場所など条件が合う田であれば引き受け、

面積を増やしていきたい」と語る。伊藤さんは、西会津の農産物のおいしさ、安全性を全国に広める目的で設立された「NPO法人食べてつながろう西会津の会」の理事を務める。

同会は、生産者と消費者の交流、農産物の直売やインターネット販売、農業体験の受け入れといった事業を展開する。

同会の活動で東京駅や多摩市で農産物販売を行う伊藤さんは、消費者への対面販売で西会津の農産物のおいしさ、安全をアピールするとともに、消費者とのコミュニケーションを大事にする。「消費者の中には普段ご飯に、もち米をブレンドして食べる人もいる。消費者の声を生産の現場に生かしていきたい」と話す。政府が昨年12月、米の生産調整を平成30年産からなくす方針を決め、米政策の変革期を迎えている今、伊藤さんは「どこのブランドにも負けない、西会津でしかできない米作りをやりたい」と、ブランド米作りを主体とした複合経営に生き残りをかける。「水稲では今後、品質が安定した良食味品種といわれる『天のつぶ』の栽培と、さらなる食味値向上を目標に取り組み、また冬期のハウス栽培では新たな作物に挑戦したい」と意気込みを語る。

東京駅地下・丸の内マルシェでの「NPO法人食べてつながろう西会津の会」の農産物販売（右が伊藤さん、昨年6月）



にしあいづ健康ミネラル野菜普及会 会長

武藤 佐代子さん [柴崎]

むとう・さよこ

**ミネラル豊富な
おいしい野菜作り、プラス
交流で活性化****「田**

んぼに稲がないとやっぱり寂しい。水田の稲が風になびくのが農村の風景。何か休耕田を減らす手だてはないものか」と武藤さんは思案する。

武藤さんは水稲、ソバ、キュウリのほか、キャベツ、レタスなど直売用に多品目の野菜を栽培する。平成10年から健康な土づくりによるミネラル栽培に取り組む。「初めて土壌分析をしたとき、リン酸とカリウムが過剰で、人間に例えると糖尿病だった。成分のバランスが取れた土壌で育てた野菜は病害虫に強く、収量が安定し、さらに味が全然違う」と説明する。ミネラル栽培で自分がおいしいと思える野菜作りに励む。

現在、にしあいづ健康ミネラル野菜普及会の会長を務める武藤さんは、農業の現状を「これ以上販売価格が下がれば採算が取れない。経費の削減には限界がある。このままでは受託農業をやめざるを得なくなり、耕作放棄地が増える」と語る。このような現状の打開策として、経営所得安定対策での農家支援の強化、また、集落単位での農地保全の二つを挙げる。「代々受け継がれてきた農地を、これからは個人単位ではなく、集落単位、町全体で守っていくことが重要

で昔の「結（ゆい）」のような仕組みで助け合えばいいと思う。また、さまざまある農業関係団体、組織間の連携あるいは組織の特徴に合った役割分担も必要」と指摘する。

同普及会は、JA会津いいで青年部西会津支部が行う西会津産のサツマ芋を使った「芋焼酎作りプロジェクト」に加わりサツマ芋の栽培を行う。このプロジェクトでは、苗の定植、芋掘りなどに親子が参加できる農業体験も行っている。

武藤さんは、ミネラル栽培による野菜作り、直売に加え、こうした農業体験など「農業プラス交流」にも活路を求め、こちらから外に売りに行くのではなく、西会津に買いに来てもらえるような、人を呼び込む魅力づくりが大事だと語る。

「農業は自然相手の仕事であるため毎年同じではなく、また、なかなかうまくいかないこともある。しかし毎日が勉強であり、喜んだり心配したりしながら進歩できるもの。一番の魅力は家族で仕事ができること。一定の収入が確保できれば農家を継ぎたいと若者は考えるはず」と武藤さんは話す。今後は「もっと農業の楽しさやロマンを子どもたちに伝えていきたい」と語る。



JA会津いいで青年部西会津支部の「芋焼酎作りプロジェクト」に、にしあいづ健康ミネラル野菜普及会の皆さんが加わり作業する（昨年6月の西林での芋苗定植）



農事組合法人 会津きのこ工房 代表理事

三留 満さん [青坂]

みとめ・みつる

シイタケ、キクラゲ栽培を 地域を支える産業に 育てていく

「ど

うすれば若い人たちが町に定着するか」。三留さんは、西会津で働きたい、暮らしたい、と思っ

たい、暮らしたい、と思っ

える条件整備の必要性を強調する。東日本大震災から半年後の平成23年9月、三留さんはキノコ生産者の仲間と農事組合法人「会津きのこ工房」を立ち上げ、以来、同工房の代表理事を務める。「若い生産者の規模拡大に向けた熱意を背中を押され、法人設立に踏み切った」と振り返る。

三留さんは菌床栽培に着目した理由について、おがくずと米ぬかなどを混ぜて作った培地ばいぢに菌を植え付け、暖房などを使って人工的にキノコを育てる菌床栽培は、雪国でも導入が可能で、生産規模を段階的に拡大できるからだと言う。「西会津には『これ』という

安定した経営を維持できる作物が残念ながら無い。だから菌床栽培の1億円産地確立という目標を持って仲間と規模拡大を進めてきた」と三留さんは語る。

同工房は、安全で良質なキノコの生産加工、販売を通して地域産業の発展に貢献することなどを企業理念にする。現在、シイタケ12万菌床、キクラゲ1万5千菌床を栽培する。30代40代が中心の組合員10名が作業にあたる。菌床の約9割を占めるシイタケの半数は千葉、神奈川の市場に出荷する。

このほか地元スーパーとの契約販売で地産地消も進める。「震災後、県産シイタケは風評で大打撃を受けた。しかし品質や安全性を訴え、今ではもつと西会津産の物が欲しいと言われるまでになった」と三留さんは状況を語る。

個人でも菌床シイタケとキクラゲ栽培に取り組む三留さんは、「菌床栽培を始めて13年。最初は手探りで試行錯誤の繰り返しだった」と打ち明ける。今抱える問題点については「秋は大量出荷できるが、気温が低い冬は生産量が落ちる。特に年明けから少なくなる。季節によって波がありコンスタントに出荷できない。また、量がそろわず、もつと欲しいという市場ニーズに応えきれない」と、安定出荷体制の確立、栽培規模の拡大を課題として挙げる。

三留さんは「年間を通して収入がある経営でなければ専業農家や若い後継者は育たないし、伸びない。冬期間の収入をどう確保できるかが鍵になる。このためキノコは西会津にとって重要な作物になり得る可能性がある」と今後を展望する。「偶然だが、法人のメンバーは婿が多い。これを生かし外部からの視点や個性を大事にしながら菌床栽培が地域を支える産業になるよう可能性を追い求めていきたい」と思いを語る。

冬期間も収穫量を一定に保つため、室温12~16度のハウスで、シイタケの発生を管理する作業が繰り返される。三留さんが持つのは、発生操作作業後、2週間ほど経過した収穫間近のシイタケ（平成26年2月、青坂）



西会津町ならではのユニークなイベントや冬の伝統行事を通して「雪国にしあいつ」を再発見するとともに、全国への情報発信、地域間交流による活力ある町づくりを目的に、第24回西会津雪国まつりが2月9日、さゆり公園ふれあい広場で開催され、県内外から多くの人々が訪れました。

今年は時々青空が広がり、一日中、穏やかな天候になりました。雪国まつりは威勢の良い鏡開きで幕を開け、雪上運動会や桐ゲタ飛ばし全国大会、かき氷早食い選手権、新企画の雪上ウルトラクイズなど多彩なイベントが繰り広げられました。また、雪のれん市は大勢の人でにぎわい、会場は熱気であふれました。



寒さ吹き飛ばす熱気あふれる

第24回 西会津雪国まつり

雪国まつり
フォトギャラリー
2014
～出会い、発見、創造



本場沖縄のエイサー披露

冬季交流で来町した沖縄県大宜味村の児童生徒は、そろった衣装で沖縄の郷土芸能「エイサー」を披露し、イベントの開幕に花を添えました。

歳之神は寺前自然塾と宮城教育大学学生の協力で行われ、高さ約5mの歳之神は点火されると勢いよく燃え上がりました。

無病息災を祈願「歳之神」



震えながら「かき氷」早食い競う

若者まちづくりプロジェクトの企画で「かき氷早食い選手権」が開かれ、参加者は、かき氷を震えながら口に運び競い合いました。会場では参加者の奮闘ぶりに笑いが沸き起こりました。結果は優勝・渡部雄太さん、準優勝・いなせひさみつさん、3位・花見和則さん。



フィナーレ飾る冬花火

午後6時から真冬の夜空に色とりどりの花火が打ち上げられ、雪国まつりはフィナーレを迎えました。



メイン・イベント「桐ゲタ飛ばし全国大会」

桐ゲタ飛ばし全国大会には、町内外から53人が参加し、一人ずつ思い切りゲタをけり飛ばしました。勢い余ってステージから落ちる参加者もあり会場には歓声が響きました。



桐ゲタ飛ばし一般男子の部 優勝は菅野さん

一般男子の部では菅野真澄さん(飯館村、写真左)が23m82cmで優勝しました。今大会では残念ながら日本記録の更新はありませんでした。そのほかの部門の優勝者＝小学生男子の部・猪俣博史さん(森野)、小学生女子の部・薄上明日香さん(上小島)、中学生男子の部・物江竜平さん(下小屋)、一般女子の部・小宅彩乃さん(仙台市)

キャンドルの炎が会場を包む

ペットボトルに絵付けをするキャンドルホルダー作り体験が初めて行われ、親子らが参加し、楽しみました。完成したキャンドルは会場周囲やステージに設置され、およそ700本のろうそくの明かりが雪上に浮かび会場を幻想的に包み込みました。



雪上ウルトラクイズも盛り上がる

新企画の雪上ウルトラクイズでは、子どもから大人まで多くの皆さんが賞品を目指して西会津町にちなんだ○×クイズに挑戦しました。





ソチ五輪に負けない熱戦

踏み俵競争、むかで競争、そりりレーによる雪上運動会が開催され、ソチ五輪に負けない熱戦が繰り広げられました。大宜味村の児童生徒、宮城教育大学の学生など町外の皆さんも参加しました。突然、踏み俵の取っ手の縄が切れてしまっても参加者は笑顔で走り切りました。

転倒チーム続出「むかで競争」

むかで競争では、3人の息がなかなか合わず、つまずいて転倒するチームが続出しました。



力作の雪灯籠・雪像が会場を取り囲みました。入賞団体=町長賞：尾野本地区老人クラブ連絡協議会(写真左)、町商工会長賞：大久保・中野自治区、会津いいで農業協同組合長賞：4町内会、町森林組合長賞：東北電力阿賀野川ダム管理所、福島民報社賞：10町内会、福島民友新聞社賞：西会津若者まちづくりプロジェクト

力作ぞろい作品



大人も子どもも全力で駆ける

そりりレーでは、大人も子どもも全力で雪上を駆け回りました。そりを引く選手が速く走り過ぎ、折り返しで、そりが曲がりきれず、乗っている子どもが雪上に投げ出されるといったハプニングが起き、会場には笑い声や声援が響きました。参加チームの皆さんは運動会を通して親睦を深めました。



特設のジャンボ滑り台は終日、子どもたちの一番人気となりました。来場した親子は何度も滑り下り、時間がたつのを忘れて、そり遊びを楽しみました。

思い切り「そり遊び」



「やっと登れた！」

子どもたちは、お父さんやお母さんに手伝ってもらい、やっとの思いでジャンボ雪だるまによじ登り、雪だるまと青空をバックに記念撮影しました。

大勢の来場者が次々スノーモービルに乗り、雪煙を上げての疾走を体験しました。コースには迫力あるエンジン音と大きな歓声が響き渡りました。

スノーモービル乗車体験に行列



尾野本地区老人クラブ連絡協議会に町長賞

24団体が参加した雪灯籠・雪像コンクールでは、尾野本地区老人クラブ連絡協議会が西会津町長賞に輝きました。表彰式で伊藤町長が渡部雅二郎会長に賞状を贈りました。



雪のれん市もにぎわう

雪のれん市には、そばや味噌ラーメン、おやきなどの露店が並び、湯気の上がる温かい食べ物を求める家族連れでにぎわいました。



みかん目指して勢いよく駆け出す

今年も高揚塾と奥川婦人会の皆さんの協力で雪上みかん拾いが開催されました。参加者はスタートの合図とともに、みかん目指して勢いよく駆け出しました。続いて、みかんに付いた番号の抽選会が行われ、当選者に賞品が贈られました。

雪国まつり前日の8日、各団体の皆さんは例年より少ない雪でも工夫し、雪灯籠や雪像の仕上げ作業にあたりました。

少ない雪でも工夫して制作



8日の夜には、町内各地で雪灯籠がともされました。出ヶ原では有志の皆さんが約300本のろうそくに点火し(写真)、雪国まつりの開催を盛り上げました。

たくさんの雪灯籠ともし盛り上げる



西会津町教育顕彰 表彰式

耶麻地区学校教育研究作品展



今年度の町教育顕彰表彰式は2月18日、町役場で行われ、井上祐悦教育委員会委員長があいさつした後、各種分野で活躍した児童生徒一人一人に佐藤晃教育長が表彰状を贈りました。表彰式では、伊藤町長が「夢の実現に向けてさらにまい進してください」と受賞者の功績をたたえ、続いて、武藤道廣議会議長が祝辞を述べました。受賞者代表の謝辞では西会津高2年の渡部湧也さんが「先生方の指導に感謝し、これからも努力していきます」と誓いました。

活躍を たたえ

- 平成25年度受賞者〔敬称略〕
- ▼西会津小2年 佐藤大和
〔宝川〕極真空手道選手権福島県大会・型の部〔小学1・2年の部努力賞〕
- ▼西会津小3年 長谷川姫菜
〔2町内〕福島県火災予防絵画ポスターコンクール・優秀賞
- ▼西会津小5年 秦聖志朗
〔菅本〕JJKJO東北ジュニア空手道選手権大会〔東北地区選拔予選会〕小学5年男子35kg未満の部・優勝、五十嵐史彦〔滝坂〕同・準優勝、高橋新史〔さゆりが丘〕同・第3位
- ▼西会津小6年 佐藤寿々
〔滝坂〕全国博愛絵画展・博愛賞
- ▼西会津中1年 市橋明香里
〔上野尻〕福島県造形秀作審査会・特選、齋藤峻〔3町内〕福島県造形秀作審査会・特選、江川遥人〔芝草〕全日本ユース(U-15)フットサル選手権福島県大会・第3位(会津サントス)
- ▼西会津中2年 伊藤果林
〔松尾〕福島県造形秀作審査会・特選、齋藤妃呂〔西林〕福島県造形秀作審査会・特選、佐藤郁恵〔さゆりが丘〕中学生の税の標語・福島県間税会連合会長賞、薄上叶香〔上小島〕福島県書きぞめ展・毛筆の部・書きぞめ奨励賞
- ▼西会津中3年 三留響〔縄沢〕富士通アイソテック杯野球球大会・優勝(会津リトルシニア)
- ▼西会津高 渡部湧也〔2年〕
- 黒沢〔東北高等学校選抜ボート大会〕男子シングルスカル・第3位
- ▼喜多方高 清水千郷〔2年〕9町内1、齋藤麻衣子〔2年〕菅本〕声楽アンサンブルコンテスト全国大会・高等学校部門・銀賞、全日本合唱コンクール東北支部大会・高等学校部門・銀賞、猪俣泰祐〔2年〕小山〕全日本合唱コンクール東北支部大会・高等学校部門・銀賞、伊勢亀有希〔3年〕森野〕NHK杯全国高校放送コンテスト福島県大会・ラジオドキュメント部門・優秀3席
- ▼喜多方東高 鈴木亜実〔2年〕6町内〕東北高等学校選抜ボート大会・女子シングルスカル・第6位
- ▼会津高 紫藤大地〔1年〕下野尻〕、玉木陸〔1年〕芝草〕全日本合唱コンクール全国大会・高等学校部門・金賞ならびに広島県知事賞
- ▼会津学鳳高 上野史絵〔2年〕橋屋〕、佐藤双葉〔2年〕森野〕全日本合唱コンクール全国大会・高等学校部門・銀賞、長谷川史佳〔3年〕戸中〕全日本合唱コンクール東北支部大会・高等学校部門・銅賞
- ▼西会津小学校 団体 福島県書きぞめ展・奨励学校賞
- ▼西会津高等学校 団体 地球温暖化防止のための福島議定書事業・最優秀賞

ホウレン草、大豆が入った手作りカレー

カルシウム たっぷり キーマ カレー

8

材料 (2人分)
 ホウレン草 150g
 ひき肉 100g
 油 大さじ1
 玉ネギ 1個
 にんにく・しょうが 各1/2かけ
 カレー粉 大さじ1
 トマト(二口大に切る) 1個
 ゆで大豆 50g
 プレーンヨーグルト 大さじ2
 ブイヨン(粉末) 小さじ1/2
 水 1/2カップ
 塩・こしょう 各少々

作り方
 ①鍋に油を熱し、みじん切りにした玉ネギとにんにく、しょうがを中火でゆつくりいためる。ひき肉を加えていたため、カレー粉を入れて混ぜる。そこに細かく切ったホウレン草を加え、さらにいためる。
 ②①にAを加えて混ぜ、とろみが出るまで15分ほど煮詰め、塩・こしょうで味を調え出来上がり。「1人分のカルシウム量は126mg」

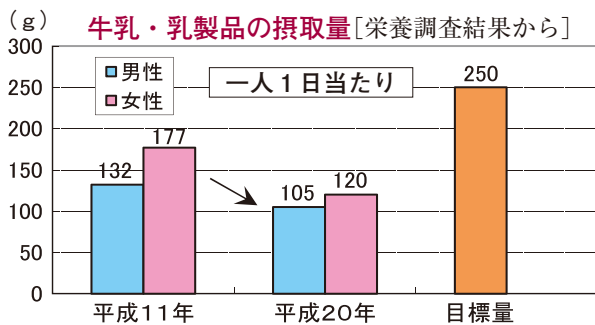


チャレンジ!!

シリーズ

食育

平成20年に行った栄養調査の結果、男女とも1日当たりの牛乳・乳製品摂取量が平成11年より減っています。摂取目標は、1日250g(牛乳コップ1杯とチーズ1切れまたはヨーグルト1個)です。カルシウムが豊富な牛乳や乳製品を毎日取りましょう。



● 毎日の食事で骨美人に

じょうぶな骨から
健やかな体をつくる



骨

の健康に欠かせない栄養素といえば「カルシウム」ですが、カルシウムは、なかなか体に吸収されにくく、ビタミンDやビタミンKと一緒に取ることで吸収が促されます。強い骨をつくるため、次の4つの食習慣を今日から始めましょう。

骨美人4つの食習慣

1 毎日、牛乳をコップ1杯飲もう

牛乳や乳製品のカルシウムは比較的、体に吸収されやすいので、牛乳で毎日確実にカルシウムを取りましょう。

牛乳のほか、カルシウムを多く含む、ひじきや切り干し大根、桜エビ、しらす干し、スキムミルク、チーズ、ヨーグルトなどの食材を少しでも活用しましょう。

2 納豆などの大豆を食べよう

特に納豆は、カルシウムの吸収を助ける栄養素ビタミンKが多い食品です。

3 青菜を食べよう

青菜類もビタミンKを多く含みます。骨粗しょう症予防の有効性が分かってきた葉酸も含まれます。毎日欠かさず1皿程度食べましょう。

4 魚を食べよう

魚にはビタミンDが豊富に含まれます。ビタミンDも同様にカルシウムの吸収を助けます。ビタミンDが足りないと、せっかくカルシウムを取ってもうまく吸収されません。



「災害時の情報交換に関する協定」結ぶ

町と国土交通省東北地方整備局の「災害時の情報交換に関する協定」締結式が1月23日、町役場で行われました。この協定は、災害時の相互の情報交換による迅速、適切な災害対応を目的に締結しました。今後、大規模な自然災害が発生した場合など、国交省は町に災害対策現地情報連絡員を派遣し、状況の把握、関係機関の連絡調整といった支援を行います。式では伊藤町長と同東北地方整備局郡山国道事務所の酒井洋一所長(写真右)が協定書を取り交わし握手しました。伊藤町長は「町民生活の安全・安心に備え本協定を結びました。万一の災害の際は被害を最小限にとどめたい」とあいさつしました。

東日本大震災 被災地の親子を招き交流

東日本大震災後、仮設住宅などに暮らす親子の支援を目的とした「西会津ワクワク子ども塾」が2月1、2日に町内で開催されました。国際NGO AAR Japan難民を助ける会の主催。塾には相馬市、南相馬市の親子25名と町内の親子30名が参加し、そば打ち体験や雪遊び、キャンドル作り、粘土細工などを通して交流を深めました。同会では、放射線量が高い地域の子もたちが思い切り外で遊べるように、この活動を平成24年7月に開始し、以来2カ月に1回ほど町内で開催しています。粘土細工では俳優酒井敏也さん(写真中央)がボランティアで講師を務め、参加者は粘土を使ったフォトフレーム作りを楽しみました。



西会津高校が「福島議定書」事業で最優秀賞

県内の学校、事業所が県知事と議定書を結び、地球温暖化防止に向けて二酸化炭素(CO₂)排出削減に取り組む「福島議定書」事業で今年度、西会津高校が最優秀賞を受賞しました。2月14日、大橋鈴実さん(2年、写真中央)、鈴木沙織さん(2年、同左から2人目)が伊藤町長に受賞を報告しました。同校では節電・節水を徹底する省エネ大作戦をはじめ、マイボトル運動の推進、資源ごみの分別、ペットボトルキャップの回収、クリーンアップ作戦などのほか、地元産食材の調査から調理実習、後片付けまでを通した「食生活と環境」の学習にも取り組み、この結果、目標を上回るCO₂の19%削減を達成しました。

創立50周年 一層の飛躍を誓い合う

町商工会青年部創立50周年記念式典が1月18日、交流物産館よりっせで行われ、関係者は一層の飛躍を誓い合いました。式典では齋藤雅信部長が「歴史と伝統を受け継ぎ、地域振興の先導役として引き続き使命と責任を果たしていきます」とあいさつ。来賓祝辞の後、齋藤部長が過去10年の歴代部長に感謝状を贈りました。続いて高松格副部長が、この10年の歩みとして、味噌ラーメン事業の展開による平成24年県商工会うまいもんNo.1決定戦での優勝、ローカルヒーロー「しょうじん 丞神デナー」の新プロジェクト開始などの活動を報告しました。式典後、講演会と祝賀会が開かれ、出席者は半世紀の歩みを振り返り節目を祝いました。



西会津町・三郷市 災害時における相互応援に関する協定書調印式



埼玉県三郷市と災害時相互応援協定 締結

町と埼玉県三郷市は、2月4日、災害時における相互応援に関する協定を締結しました。調印式は三郷市役所で行われ、伊藤町長と木津雅晟市長(写真右)が協定書を交わしました。この協定締結により、地震や水害など大規模な災害が発生した際、被災地側の要請に応じ、救援物資の提供のほか、救援活動、復旧支援、被災者の受け入れなどを行い相互に支え合います。同市は人口約13万6千人(本年2月現在)、面積は30.41km²で、埼玉県の南東端、東京都葛飾区に隣接し、都心からの最近地点が15kmの位置にあります。協定では地域間の人的・物産交流など相互の友好・協力の推進についても併せて確認しました。

奥・西会津の魅力発信 大交流フェア開催

本町と奥会津5町村、福島県は、奥会津・西会津の魅力を首都圏に発信するため、1月21日、ふくしま奥会津・西会津大交流フェアを東京・飯田橋で開催しました。このフェアは本町と柳津町、三島町、金山町、昭和村、只見町、福島県が連携し今回初めて行いました。フェアには首都圏の観光関連業者、マスコミ関係者、首都圏在住の奥・西会津ゆかりの方などが招かれました。会場では観光・物産PRのほか、田舎暮らし相談会、作家椎名誠さんによる講演会が開催されました。夜の「奥会津・西会津の夕べ」では各町村が300人を超える来場者に郷土料理や地酒などを振る舞い、奥・西会津の魅力や安全性をアピールしました。



万々に備え 文化財防火デー消防訓練

町内の貴重な文化財を守ることを目的に、1月26日、奥川向原の西勝寺で文化財防火デー消防訓練が行われました。町、町教育委員会、町消防団・消防支援隊・女性消防隊、西会津交番、西会津消防署、向原自治区の皆さん約100名が参加し、訓練は西勝寺から出火した想定で行われました。119番通報で訓練が始まり、初期消火、重要物件搬出、応急手当、放水といった訓練が本番さながらに実施されました。西勝寺への放水訓練は、近隣の防火水槽、消火栓のほか、およそ500m離れた奥川からの中継送水により行われ、消防団員らは迅速な放水作業を披露しました。



旧正月 二年参りでにぎわう

大山祇神社は旧暦の大晦日1月30日から元旦にかけて二年参りの参拝者でにぎわいました。この二年参りは、「一生に一度は、なじょうな願いも聞きなされる」といわれる野沢の山の神様に、2年にわたりお参りすることで心願成就を果たせると言い伝えられています。30日の深夜になると真冬に珍しい雨模様の中、参拝者が続々と神社を訪れました。かがり火が照らす拝殿では参拝者が無病息災などを願い一心に手を合わせました。神社脇の広場では中野区むらおこし実行委員会の皆さんが歳の神で参拝者を歓迎するとともに(写真)、心を込めて準備した年越しそばや丸もちなどを振る舞いもてなしました。



「いきいき」の病気をサポート

「トライアングルの会」の活動紹介

町の課題と取り組み

心の病気は、正しく理解されにくい。そのため誤解や偏見を生みやすく、入院の長期化などから町の入院費では第3位の病気となっており経済的負担が大きい病気です。町内には専門医療機関が無いため多くの病院等に通院しなければならず、治療の中断、これによる体調の悪化、入退院の繰り返しといった悪循環に陥り、本人のみならず家族まで孤立し、居場所が無くなるケースもあり、心に病気がある人が集まれる場づくり、引きこもり支援などが課題となっています。

町では、精神障がい者の活動の場を広げ、コミュニケーション能力を高める目的で、精神保健福祉事業として、精神デイケア「あつまっ会」を月1回開催しているほか、「ここに相談所」を平日開設して2人の専門相談員を配置し、毎日通って生活訓練などができる場を提供しています。平成15年度からは精神保健福祉ボランティアのトライアングルの会がこれらの活動に加わっています。



トライアングルの会の活動



調理実習の様子



ミネラル畑での野菜作り



「ふるさとまつり」出店活動

トライアングルの会の活動内容

トライアングルの会は、精神保健福祉ボランティア講座を修了したメンバーが集まり平成15年度に設立した組織で、精神障がい者本人と家族、ボランティア、町の3者が協働で取り組み、それがトライアングルの音色のように町全体に響いて広がるようにとの思いから会の名が付けられました。

同会では、町の精神デイケア「あつまっ会」の活動支援のほか、独自の活動として月に1回、「さすけねえサロン」というお楽しみ会を開催しています。このサロンには15人ほどのボランティアが参加し、ミネラル畑での野菜作り、健康づくりのための調理実習、ふるさとまつりへの出店といった活動（上写真）を通して障がい者の理解を推進し、共に活動することで、精神障がい者の心の安定、意欲向上を図り、こうした活動は精神障がい者が安心して生活できる環境づくりの一翼を担っています。

Q 精神保健福祉ボランティアを始めたきっかけは「職場で心に病気がある人との接し方に悩み、こういう接し方で本当にいいのか、もっと心の病気について学んでみたい」と思い精神保健福祉ボランティア講座を受講しました。

Q ボランティアに参加し感じていることは「体調を崩してボランティア活動を休んでいたとき、精神に障がいのある方から「大丈夫ですか。柴田さんに会いたかった」と逆に声を掛けられ、そのときは私を気遣う優しい気持ちに触れ、うれしく感じました。難しいのは、コミュニケーションが苦手な相手への接し方です。うわべだけの接し方では、相手は振り向いてくれません。家族のように思いやり、気持ちを通じ合うようにしなければならぬとつくづく思っています。

Q 活動を続ける秘訣は「活

トライアングルの会 柴田淳子会長にインタビュー

動参加者、ボランティアの仲間を大切にしながら楽しく活動しています。毎年開催している近藤美智子先生の講演会の音楽療法からもパワーをもらっています。昨年11月にはトライアングルの会設立10周年記念式典を開催し、心の病気への理解を深める機会になりました。来場した皆さんから直接応援メッセージをいただき、さらに意欲がわきました。

Q 心に病気がある方にメッセージを「皆さん、もっと外に出てみませんか。コミュニケーションが苦手だから外出したくないと思ってしまいがちですが、私たちトライアングルの会では、家族のように接するよう心掛けています。ご家族の皆さんも一緒に活動できます。参加してみませんか。また、ボランティアに関心がある方もぜひ一緒に活動しましょう。

すごいな！ むし歯のない子

1月29日、3歳児2名を対象に健康診査を行った結果、むし歯のない子は1名でした。



みどり 翠莉ちゃん
三留 翠莉ちゃん
(西林東)

講座紹介

女性のための学びと仲間づくり

女性講座



新聞紙で作ったエコバックを披露する皆さん(エコクラフト教室)



ガーデニング教室



戊辰戦争跡地を訪ねる(大河ドラマ館前)



新郷の自然探勝

平成25年度 女性講座開催内容

開催月	内 容	会 場	講 師
5月	歴史教室「戊辰戦争 八重と竹子」	町公民館	町生涯学習指導員
6月	現地学習「戊辰戦争の跡地を訪ねる」	会津若松市内	町生涯学習指導員
7月	エコクラフト教室「新聞エコバック作り」	町公民館	齋藤公子さん(上野尻)
8、9月	ニュースポーツ教室「グラウンドゴルフ」	さゆり公園	町社会体育指導員
9月	ガーデニング教室「寄せ植えを楽しむ」	町公民館	佐野園芸さん(湯川村)
10月	現地学習「新郷の自然探勝と歴史を学ぶ」	新郷地内	齋藤和則さん(上野尻)
11月	ニュースポーツ教室「カーリンコン」	町公民館	町社会体育指導員
12月	和菓子作り教室「くるみ饅頭と和風ケーキ」	町公民館	渡部真理子さん(5町内)
1月	折り紙教室「バラを折る」	町公民館	町社会教育指導員
2月(2回)	ニュースポーツ教室「カローリング」	町公民館	町社会体育指導員

女性講座は、学びと仲間づくりを目的とした成人女性対象の講座で、今年度は48人が受講した人気講座です。内容は左表のとおりで5月から2月まで計12回開催しました。来年度も女性講座を開講する予定ですので、ぜひご参加ください。



町民バトンタッチ

さとう ゆうき
佐藤 裕紀さん [熊沢]

すとう あゆみ
須藤 歩美さん (2月号から) メッセージ

毎日の子育て大変だと思います。何かありましたら手伝いますので教えてください。頑張れママ!!

あなたの趣味は?

読書

特技は?

似顔絵を描くこと

最近感動したことは?

息子がお遊戯会で一生懸命歌や踊りを見せてくれたこと

自分を一言で表現するとしたら?

明るい

熱中していることは?

毎日のお弁当作り

あなたのモットーは?

いつも笑顔

これからやってみたいことは?

娘が歩くようになったら家族でディズニーランドに行きたい

次の方を紹介してください

M・Sさん (楢木平)

大切なものは?
『息子の矢音しおんと娘の花音かのん。二人とも大切な家族です』



町民 ギャラリー

上野尻俳句会

(1月例会)

街の子の「消えずにいてね」春の雪
児のあとを追ふ毎日や去年こぞ今年
寒の水酸いも甘いも八十路越え
散策や一人マフラーくりり巻き
帰り路に思はぬ恋の春便り

薄 浩行 (上野尻)
斎藤五早男 (上野尻)
清野 ふみ (上野尻)
星 よしこ (上野尻)
渡部ミツイ (芝草)

聞いて! わたしの夢

ここでは西会津中学校の生徒の皆さんに、自分が思い描く夢や目標を話してもらっています。

今月は、3年・文化部前部長の川上瑞稀みずきさんです。



わたしの夢——

「わたしが将来なりたい職業はパティシエです。小さいころ母と一緒にお菓子を作り、姉に「おいしい」と言ってもらえたことがきっかけで、自分が作ったお菓子をたくさんの人に食べてもらいたいと思うようになりました。みんなに愛されるようなパティシエになれたらと思っています」

努力していること——

「家ではよくケーキを作ります。作ったことがないお菓子にチャレンジし、失敗することもあります。おいしく作れるまで何度も挑戦するように心掛けています」

最後に未来の自分に一言——

「夢をかなえられましたか? パティシエを目指す人は多く、その中でやっていくのは、きっと大変だと思います。でも自分ができることを一生懸命に行い、時には周りの人とも協力し合って理想の自分になってください。応援しています」

まちの人口 ～2月1日現在～ (前月比)

人口	7,269人	(-21人)
男	3,486人	(-8人)
女	3,783人	(-13人)
世帯	2,771世帯	(-4世帯)

戸籍の窓口 ～1月受付分～ 〈敬称略〉

お誕生おめでとう

新城 優成 くん	繁昌・祐加	芝 草
長谷川 春子 ちゃん	益大・絵美	縄 沢
斎藤 祈吹 くん	俊・美沙	端 村

ご結婚おめでとう (12月受付)

橋谷田 和洋	4町内
大石 めぐみ	金山町

お悔やみ申し上げます

和久井 敏彦 (75)	キク	夫	3町内
田崎 最子 (91)	弘成	母	4町内
根本 フミ (87)	史彦	祖母	6町内
本間 ハルエ (88)	光春	母	8町内
石田 キクエ (93)	正松	妻	芝草
齋藤 榮次 (88)	正次	父	堀越
小瀧 フヂイ (85)	達男	母	大久保
井上 アキ子 (89)	勝行	母	森野
伊勢亀 昭子 (85)	隆雄	母	下小島
齋藤 福雄 (83)	正実	父	黒沢
齋藤 實 (95)	健	父	上野尻
高橋 悦夫 (88)	謙一	父	上野尻
武藤 庄一 (71)	シン	夫	井谷
猪俣 ツネ (98)	吉雄	祖母	新町

町選挙管理委員会 薄上幸一委員長が
総務大臣表彰・県選管委員長表彰受賞



町選挙管理委員会の薄上幸一委員長が、このたび総務大臣表彰と福島県選挙管理委員会委員長表彰を受賞しました。平成15年9月から同委員長を務める薄上さんは、昨年7月の第23回参議院議員通常選挙で適正な選挙管理・執行と明るい選挙の推進に尽力した功績などが認められ受賞しました。表彰式は1月30日に県庁で行われました。

2月7日、薄上さんは町役場を訪れ伊藤町長に受賞を報告し、「受賞できたのは関係者の皆さんののおかげ、この賞に恥じぬよう今後も投票率向上などに努めていきたい」とあいさつしました。

林業講演会のお知らせ

町では、木材価格の低迷など林業を取り巻く環境が厳しさを増す中、林業の振興を図るため、森林の適正管理、生産される森林資源の有効活用、また、ニホンザルなど有害鳥獣の生息状況についての講演会を開催します。

日時 3月15日(土)
午後1時30分～

会場 林業研修センター

講師 福島県指導林家連絡協議会長
みどり かわ へい じゅ 氏
緑川平壽氏
有限責任事業組合おーでらす代表
こん の まりこ 氏
今野万理子氏



プレDC
福島県観光キャンペーン

〈期間〉平成26年4月1日～6月30日

平成27年4月から開催される「ふくしまDestinyネーション・キャンペーン(ふくしまDC)」に先立ち、『プレDC・福島県観光キャンペーン』が開催されます。期間中には、さまざまな企画が予定されています。町民みんなが観光客を迎える体制を整えていきましょう。

以下は広告です。内容については、広告主へお問い合わせください。

有料広告を募集しています

紙面に掲載する有料広告を募集しています。詳しくはお問い合わせください。

- ◆大きさ 1枠当たり縦4.0cm×横8.5cm
- ◆掲載料 1枠当たり5,000円/月

【問い合わせ先】

企画情報課・広報広聴係 ☎45-4536

雪国での思い出刻む

2月7日、沖縄県大宜味村の児童生徒15名がおよそ9時間かけて来町し、3日間にわたり冬季交流が行われました。大宜味、西会津双方の児童生徒は、7月の夏季交流以来、半年ぶりに再会し、ホームステイや雪上運動会などを通してさらに絆を深めました。沖縄の子どもたちは雪国の生活や文化を体験し、忘れられない思い出を持ち帰りました。

こゆりちゃん
トピックス



[写真]①歓迎の言葉を述べる矢部有輝^{ゆうき}さん(西会津小6年)／②歓迎式で代表あいさつする新城頼^{しんじょうらい}さん(大宜味中1年)／③雪国まつりのオープニングで堂々とエイサーを披露する大宜味の児童／④歓迎式で西会津町を紹介する鈴木颯太^{そうた}さん(西会津小6年)／⑤⑨同じく大宜味村を紹介する児童／⑥⑦⑧⑩⑪2月9日に開催された雪国まつりの雪上運動会に出場し、そりりレー、むかで競争などで競い合う子どもたち／⑫歓迎式で半年ぶりに再会し握手を交わす児童



今月の表紙

旧暦大晦日の1月30日、大山祇神社の地元大久保・中野では、中野区むらおこし実行委員会の皆さんが、日が落ちると300の手作りの雪灯籠に明かりをともし、ろうそくの炎が中野から同神社までの夜道を温かく照らして二年参りの参拝者を出迎えました。